

評価者	防災安全部長	長崎 聡之
-----	--------	-------

評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	総合交通	施策の方針	交通安全意識の高揚
目標とすべきまちの姿	交通安全意識の普及徹底などの取組を推進することで、交通安全対策の必要性を市民が認知し、市民の交通安全意識が高まっています。 関係機関、団体及び市民の協力により、交通事故の発生件数は年々減少しています。 また、自転車利用者の交通マナーが向上し、市民が安心して暮らせる快適なまちとなっています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成30年度(2018年度)	15.9%	平成29年度(2017年度)	17.0%	平成28年度(2016年度)	16.2%
	平成27年度(2015年度)	17.6%				

(2) 妥当性

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.0%	1.2%	0.2%
ちょうどよい	1.5%	51.6%	1.0%
効果不十分	3.0%	5.1%	13.9%

平成30年度(2018年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.7%	0.9%	0.2%
ちょうどよい	2.1%	49.2%	0.5%
効果不十分	2.3%	5.8%	16.9%

平成29年度(2017年度)

施策の方針全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.2%	2.3%	0.5%
ちょうどよい	0.7%	53.1%	0.0%
効果不十分	1.1%	5.0%	14.7%

平成28年度(2016年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.9%	0.7%	0.0%
ちょうどよい	1.6%	48.1%	0.7%
効果不十分	3.4%	5.6%	15.0%

平成27年度(2015年度)

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成30年度(2018年度)	23.6%	52.1%	3.1%	21.2%
平成29年度(2017年度)	26.7%	48.5%	2.8%	22.0%
平成28年度(2016年度)	24.5%	51.2%	3.2%	21.1%
平成27年度(2015年度)	23.5%	48.5%	4.1%	23.9%

2 内部評価

(1) 平成30年度(2018年度)の目標

年間の各種年齢に応じた交通安全教室の実施。(防安-10)
 自転車マナーアップキャンペーンの実施。(防安-10)
 路面標示による注意喚起の拡大。(防安-10)
 通学路における危険箇所の合同点検実施回数及び参加小学校の拡大(防安-10)
 歩行空間の確保を目的としたカラー舗装の充実(防安-10)

(2) 目標とすべきまちの姿と平成30年度(2018年度)の目標との関連性

交通安全意識の継続による効果。
 子どもから高齢者まで、各世代に応じた交通安全教育の拡大・充実を図るとともに、自転車の安全な利用の促進に関する施策を推進。
 警察、道路管理者、市内交通関係機関等との連携を密にして、総合的・効果的なスクールゾーン等の交通安全対策を推進

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託 事務	今後の 方向性	
整理番号	事業名	平成30年度 (2018年 度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年 度)	令和元年度 (2019年 度)	平成 30年度 (2018 年度)	令和 元年度 (2019 年度)		事業 内容	予算 規模
防安-09	交通安全対策事業	21,996	20,441	39,217	42,921	2.2	2.2	無	b	B

(4) 主な実施内容

【主な実施内容】

新入学児童や幼稚園・保育園児を対象とした交通安全教室、小・中・高校生を対象とした自転車教室、成人、高齢者向けの交通安全教室等の実施。(防安-10)
 鎌倉、大船警察署、交通安全協会等と連携した交通安全キャンペーン等の実施。(防安-10)
 自転車の安全な通行帯の確保を目的に自転車左側通行帯の路面標示を実施。(防安-10)

【実施できなかった事業とその理由等】

・自転車利用者のマナーアップに努める街頭活動や啓発の拡充が不十分であった。そのため、様々な機会と捉え自転車利用者のマナーアップの充実を図ります。(防安-10)

(5) 平成30年度(2018年度)の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	適切	要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	適切	要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	適切	要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	適切	要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

- 交通安全指導員を配置するなど、様々な交通安全教室を実施して、交通安全運動を展開したことで、効率性について、適切と評価した。
- 年間を通じ各種年齢に応じた交通安全教育を実施して、交通事故発生件数が減少効果となったことから有効性について、適切と評価した。
- 本市の交通事故発生件数は減少したことで、妥当性について、適切と評価した。
- 交通事故をゼロにする取り組みは、継続した交通安全普及啓発を実施したことで、公平性について、適切と評価した。

(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

交通安全教育や意識啓発は継続が重要であり、所轄の警察署と連携しながら交通事故件数をゼロを目指す。(防安-10)
 歩行者の安全な通行帯を確保する目的とし、道路のカラー舗装や自転車の円滑な通行として自転車指示標示の整備を推進する。(防安-10)
 自転車利用者のルールとマナーの向上と自転車損害賠償責任保険の加入義務の周知徹底を図る。(防安-10)

(7) 令和元年度(2019年度)の目標

子どもや高齢者の交通安全教育の充実。(防安-10)
 自転車マナーアップキャンペーン等の自転車利用者に向けた街頭活動や広報。(防安-10)
 高齢運転者に運転免許証の自主返納の推進。(防安-10)
 歩行空間の確保を目的として路側帯のカラー舗装化の充実。(防安-10)
 自転車の左側通行を促がす自転車指示標示の拡充。(防安-10)

(8) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性

交通安全教育の継続による交通事故減少効果。(防安-10)
 自転車利用者のマナーアップに運動により自転車の交通事故発生を抑制。(防安-10)
 高齢運転者の事故防止対策。(防安-10)
 道路幅を狭く見せる効果があり、速度抑制と運転者が中央を走行して歩行者の安全を保護し、車の通行を徐行させ歩行者を安全を確保。(防安-10)
 自転車の通行すべき部分を明確し、進行方向を明示し歩行者との事故防止対策。(防安-10)

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	防安-10	事業名	交通安全対策事業					単位	人	指標の傾向	備考
指標の内容	年間交通事故死傷者数を0人とする。										
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)				
平成28年度以降については、「第10次鎌倉市交通安全計画(平成28年から平成32年度)までの目標値とした	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				
	実績値	2.0	3.0	1.0	3.0	1.0					
	達成率	-	-	-	-	-					

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

・交通安全教室、自転車教室、交通安全教室等の実施は大事なことである。一方、ある意味ではあたりまえの内容。各世代に応じた交通安全教育の充実が必要ではあるが、工夫がほしい。
 ・実施内容が良くないとも思わないが、交通安全・安心のまちに向けて効果が出ているのかは、評価シートからは未だ読み取ることができない。

指摘への対応、コメント等

交通安全教育は各世代に繰り返し実施することで定着して、意識を深めます。内容については、時事に沿った工夫を取り入れていきます。

各種の交通安全教育やキャンペーン等の街頭活動の充実を図り、交通事故発生件数の減少や死亡事故の減少となっています。

提言

・「目標とすべきまちの姿との関連性部分に記載のある「各世代に応じた交通安全教育の充実を～」の部分非常に大事だと思っているので、具体策の計画・効果を期待している。

・「自転車左側通行帯の路面表示を実施した効果の検証がほしい。取り締まりや注意喚起月間等を設けるなどして、ルール徹底を図ってほしい。

・「目標とすべきまちの姿」にある「交通安全意識の普及徹底などの取組を推進することで、交通安全対策の必要性を市民が認知し、市民の交通安全意識が高まっています。」について、交通安全対策の必要性の市民の認知度はどのように確認しているのか？また「交通安全意識」は高まっているのか？調査の上、指標とすべき。

・「目標とすべきまちの姿」にある「関係機関、団体及び市民の協力により、交通事故の発生件数は年々減少しています。」について、関係機関等はどの様な協力をしているのか？また、これに行政機関はどの様に関わっているのか？明確にして、それに対応した事業を実施すべき。

・「目標とすべきまちの姿」にある「自転車利用者の交通マナーが向上し、市民が安心して暮らせる快適なまちとなっています。」について、「自転車利用者のマナー」はどのように確認しているのか？確認して「指標」とすべき。

・「市民に交通安全意識の徹底を図るため、啓発活動や交通安全教育を継続したことで、意識の向上が概ね図られている。」とあるが、どのような方法で確認しているのか？アンケート等により客観性があるデータがあるのであれば指標とすべき。

提言に対するコメント等

年間の交通安全教室を計画的に進め、時事の実例を捉えながら講話に反映していきます。

自転車指示表示を通行する自転車利用者の効果については、今後の課題として検討したいと考えます。なお、朝の通勤時間帯に、自転車利用者に原則、車道を通行するよう所轄警察署と連携し、注意喚起を実施していきます。

意識啓発の効果をも具体的に数値化することは困難であると考えますが、本市の交通事故の死傷者数を指標として捉えています。今後も引き続き交通事故の発生件数の減少や死傷者数ゼロを交通安全意識の高まった効果であると考えます。

関係機関は、交通安全対策を本市と連携している道路管理者、交通管理者、教育委員会、交通安全協会等の存在を明確にします。

自転車の利用者のマナーアップには、街頭活動や自転車教室等の交通安全教室の実施を踏まえマナーの向上と交通事故死傷者数ゼロとするのが、指標であると考えます。

交通安全教室を繰り返し実施した成果として、本市の交通事故発生件数の減少を指標と捉えています。

交通安全意識の高揚

評価できるところ

- ・自転車の安全な通行帯の確保を目的に自転車左側通行帯の路面標示を実施。
- ・自転車に係る交通事故件数の減少していることは良い。
- ・市内の年間交通事故死傷者数は低く抑えられていることはよいことである。引き続き関係機関との連携を深め交通事故防止の意識啓発に取り組む必要あり。
- ・新入学児童や幼稚園・保育園児への交通安全教室、小・中・高校生への自転車教室、成人、高齢者向けの交通安全教室等の実施している。小・中・高校生向けの自転車教室や高齢者向け交通安全教室の実施など地道な活動を行っている。
- ・次年度の目標に新たに「高齢運転免許証返納推進」を設定して具体策に期待したい。指標も提示願いたい。
- ・各種年齢に応じた交通安全教育を実施して、交通事故発生件数が減少効果となったこと。

		評価の内訳		
取組				
効果				

委員会の評価
-

課題

- ・記述内容が昨年とあまり変わらない。
- ・取組に対する効果が伝わりにくい。
- ・目標にあって実施内容にない「通学路危険箇所合同点検」「歩行空間の確保を目的としたカラー舗装の充実」は実施しなかったのか？「実施出来なかった事業とその理由」にも記載が無い。

提言

- ・交通安全教室、自転車教室、交通安全教室等の実施は大事なことである。一方、ある意味ではあたりまえの内容。各世代に応じた交通安全教育の充実が必要ではあるが、工夫がほしい。
- ・自転車利用者のマナーは良くなっているのか？指標が欲しい。
- ・高齢者の運転免許証自主返納、自転車の損害賠償保険加入義務の周知は特に問題になっている事柄なので推進して行って欲しい。
- ・各世代に応じた交通安全教室を毎年行っているのであるならその人数も指標としてもよいのでは？
- ・「意識の高揚」という自覚でしか確認出来ないものについては、アンケートによって確認し、指標を策定すべき。

質問

- ・交通安全教室やキャンペーンの実施以外、あまり具体性がなく、有効性について「事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している」といえるだろうか。
- ・「成人、高齢者向けの交通安全教室等の実施」とあるが受講者はどの様に募っているのか。受講者数はどの程度いるのか。また特に、この1年話題になった「高齢ドライバー」の安全対策について市として新たに立てた対策・取組はあるのか。
- ・自転車教室の参加者は、そもそも意識が高い。そういうところに来ない市民をどうするのか？